

九州支部だより

第 19 回九州支部主任者研修会 印象記

馬田 敏幸

標記研修会が「放射線安全行政の動向と改正法令への対応」をメインテーマに、平成 24 年 10 月 12 日に福岡ガーデンパレスにおいて開催された。当日は各地から約 40 名の放射線取扱主任者、放射線管理実務者等が参加した。開会の挨拶で、支部長の九州大学の百島則幸先生が、研修会の、1) 放射線安全管理行政の動向、2) 新法令改正の要点と対応、3) 放射線・放射能測定の現状、の内容を簡単に紹介され、講演がスタートした。



写真 講演風景

1. 放射線安全管理行政の動向

文部科学省放射線規制室長の南山力生氏が、今回の法令改正と原子力規制委員会設置法の概要について講演された(写真)。法令改正のポイントは、1) クリアランス制度の導入、2) 放射化物への規制、3) 廃止措置の強化、4) 譲渡譲受制限の合理化、5) 罰則の強化、であり、原子炉に対する罰則並になった。次に設置法については主に次の 2 点を挙げることができる。1 点目は関係組織の一元化及び機能強化。すなわち、①環境省の外局として、原子力規制委員会の設置、②原子力規制委員会に原子力規制庁と称する事務局の設置、③内閣に原子力防災会議を設置する等である。2 点目は原子力安全のための規制や制度の見直し。すなわち、1) 原子炉規制法を改正して、①重大事故対策の強化、②最新の技術的知見を施設・運用に反映する制度の導入、③運転期間の制限を設ける。さ

らに、2) 原子力災害対策特別措置法を改正して、①原子力災害予防対策の充実、②原子力緊急事態における原子力災害対策本部の強化、③原子力緊急事態解除後の事後対策の強化、④原子力災害対策指針の法定化、等である。現在の放射線規制室は平成 25 年 4 月 1 日から原子力規制委員会所属の放射線対策課になるということである。

2. 新法令改正の要点と対応

(株)千代田テクノルの遠藤正志氏は「新法令の内容と実際」と題して、放射化物の規制への導入を中心に講演された。これまでは放射化物は線量で管理されてきたが、今回、法令で規制されたことにより、放射化物は RI の種類、数量、記録者と場所の記帳が必要となる。加速器

主任者 コーナー

によって放射化されているということと放射化物とは異なる、ということは何度も強調されていたのが印象的である。したがって、装置に組み込まれている場合、又は発生装置として使用する目的の場合は放射化物として管理しなくても良いということである。

「加速器施設の改正法令への対応」では、(公財)九州シンクロトン光研究センターの岡島敏浩氏が、1) 施設の概要と放射線安全管理、2) 放射線発生装置等の放射化の検討、3) 新法令への対応について講演された。30 mのリニアックで最大270 MeVに加速された電子が、周長75.6 mのシンクロトロンで1.4 GeVまで加速され、そこから出てくる放射光が研究に利用されている。最も放射化されやすい部分は直線から円形への導入部である。今後の対応としては、放射化物として既に機器があるので保管設備を新設する。また、検討の結果、空気と冷却水の放射化は問題ないことが分かったので、次の変更許可申請では、そのことも明記したいとのことだ。

3. 放射線・放射能測定の現状

佐賀県環境センターの穴井功一氏が「環境放射線モニタリング」と題して、玄海原子力発電所に係る放射線モニタリングについて講演された。原発の立地県であるため、原発の稼働に伴い環境放射線の測定が開始された。その後、JCO事故や福島第一原発事故のため、現在で

はモニタリング基地が格段に増加した。モニタリングは平常時と比較して玄海原発の影響があるかという視点で行われているため、チェルノブイリ原発事故や福島第一原発事故の影響によるデータは除かれているという。環境放射線への国民の関心が高い中、測定が安心のためにいかに重要であるかということを熱心に話された。

次は(一財)九州環境管理協会の玉利俊哉氏が「環境試料の放射化学分析」を講演された。九環協は昭和50年代より環境放射能分析の実績があり、福島第一原発事故でもGe半導体検出器による環境試料測定で、多大な貢献をされている。研修会ではGe半導体検出器によるγ線スペクトロメトリ、放射性ストロンチウム、トリチウム、プルトニウムなどの分析法の紹介があった。

最後に、(株)千代田テクノルの小林文彦氏が「作業環境測定」のデザインや測定について講演された。最近では、PET施設からの測定依頼が多いという。

以上のように盛りだくさんの講演を聞くことができ、講演後も活発な質疑応答があり、大変有意義な研修会であった。研修会の後は情報交換会が開かれ、皆さんと懇親を深めることができた。放射線安全取扱部会九州支部の更なるネットワークの強化を図ることができた研修会でもあった。

(産業医科大学アイソトープ研究センター)

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

上養義朋(委員長)、池本祐志、小野孝二、川辺 陸、鈴木朗史、桧垣正吾、宮本昌明、吉田浩子